

外来化学療法部

■ スタッフ

部長 影山 慎一
 副部長 井上 靖浩

医師数 併任 13 診療科医師

■ 部門の特色

注射剤による外来化学療法（がんに対する細胞毒性抗がん剤、抗体治療薬、ホルモン治療薬、良性疾患に対する抗体治療薬など）を院内で一元化して実施することにより、適切かつ安全な専門の治療を推進することを特色としています。2009年4月に中央診療部門として外来化学療法部が設置され、全診療科参加型で運用しております。治療は各診療科医師が計画を立て実施をし、外来化学療法部においては、医師の実施を受けて治療薬調製を行い、看護スタッフから治療観察を行うチーム医療を実践しています。

■ 診療体制と実績

1. 業務体制

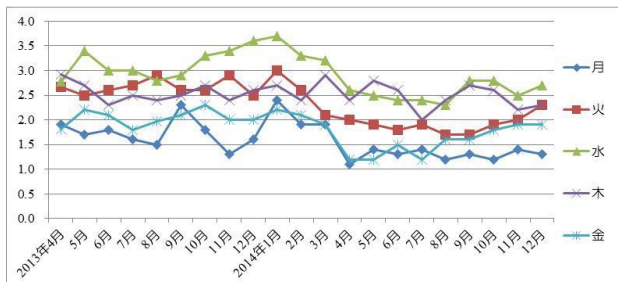
外来化学療法部は病院2階にあり、12の治療ユニットに加えて、隣接内科外来にも3ユニットを追加して、15ユニットでの運用をしております。また、薬剤調製室に2台の専用安全キャビネットを設置し、当日治療決定された化学療法剤の薬剤調製を行っています。また、専用の診察室を2部屋設置しています。

2009年7月よりは全科を受け入れた体制で院内の外来化学療法が一元的に行われております。また並行して治療レジメン登録も完備され、登録レジメンからの注射薬処方が行われ、薬剤部でのダブルチェックを行い、ヒューマンエラーを回避し、安全な外来治療が行われています。

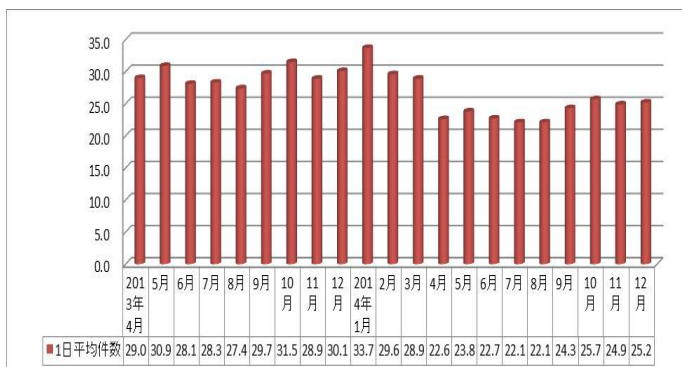
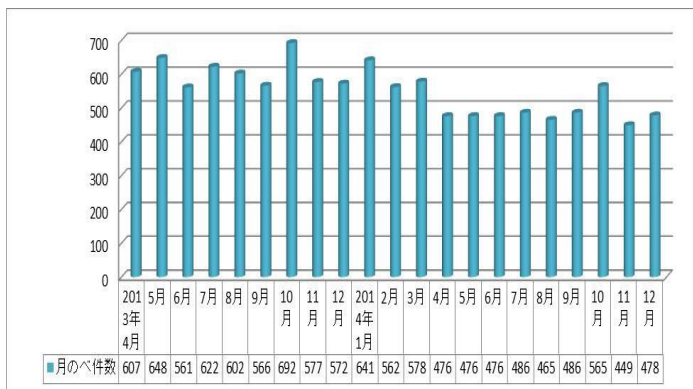
外来化学療法部では定例運営委員会が開催され、医師、看護師、薬剤師、事務側と院内多職種の打ち合わせが行われています。

2. 診療実績

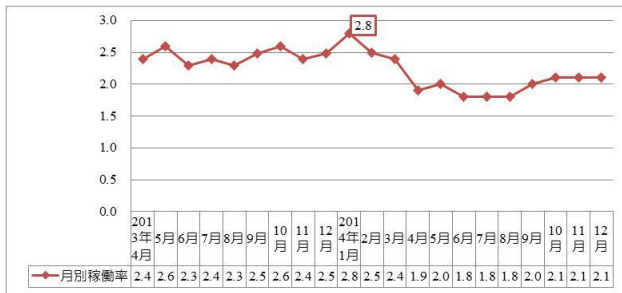
2014年度まで治療実施数の月別と一日平均の推移



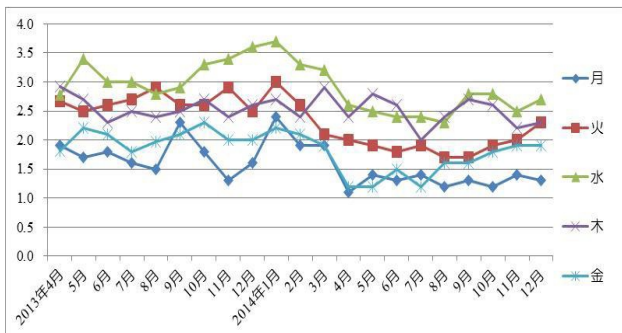
を下記に示します。2013年度は月570～690件、一日平均27～33件であったものが、2014年度は月470～560件、一日平均22～25件に減少しています。2014年4月の診療報酬改定により、皮下注射のがん治療薬が外来化学療法加算対象外となり、各診療科での実施になったことが要因と考えられます。他の点滴治療の件数に変化がないため、治療室内の治療ユニット利用の様子には変化はありません。



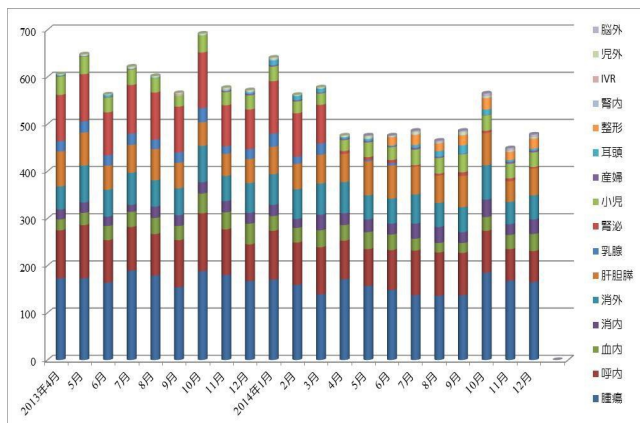
15ユニットの稼働率は、2014年1月が2.8とピークでしたが、2014年4月以降は2.0前後の推移です。



曜日別には、火曜、水曜、木曜の利用が多く、月曜、はやや少ないが稼働率です。



診療科別では、腫瘍内科の治療数が最も多く、呼吸器内科、腎泌尿器外科、消化管外科、肝胆膵外科の順でした。院内 16 科の治療を担当しました。



■ 今後の展望

運用開始後、6年目を向えて順調な治療実施となっています。安全性には問題なく運営されています。しかし、現在の12(+3)のユニットでは絶対数の不足があります。新外来棟への移行まではこれまでの治療数を維持して安全な外来化学療法を継続することとします。